二〇一七年六月二一日（参加者一六名）

羊歯涼し森の洩れ日をうち煽ぎ　はく子
せせらぎに沿ひてカラフル七変化　はく子
蝶縺れつつ木洩れ日に紛れけり　はく子
人声に泥かぐらたて蝌蚪消ゆる　はく子
蜂猪に注意と札や登山道　はく子
乱舞せる水輪と見ればあめんぼう　うつぎ
大蒜の棒のごとくに茎立ちぬ　うつぎ
空谷のなぞへを埋む羊歯涼し　うつぎ
漣の生れては消ゆる池涼し　うつぎ
空梅雨や河原は石の庭のごと　せいじ
せせらぎに和して四葩の毬揺るる　せいじ
友の手を杖と頼みて避暑散歩　せいじ
木洩れ日と戯るるごと羊歯涼し　せいじ
逍遥す森に序破急青葉風　ぽんこ
エンゼルを囲みて園の薔薇香る　ぽんこ
日矢こぼれ落つ群落の羊歯涼し　ぽんこ
小蘭亭青葉隠れに飛簷かな　ぽんこ
展けたたるダム湖に望む青嶺かな　わかば
谷川の磊々洗ふ音涼し　わかば
風あそぶ羊歯群落の目に涼し　わかば
倒木を沈めて山湖澄めりけり　わかば

渓あぢさゐ木々の漏れ日に色深め　菜々
筆洗ひ池へ傾く花擬宝珠　菜々
せせらぎへ枝うち重ね若楓　菜々
登山道譲りあひては相会釈　有香
山の影映して青田昏れなんと　有香
晩鐘のごとくに峡の遠蛙　有香
なだれうつ羊歯の群落夏木立　明日香
茶室への径擬宝珠の花明かり　明日香
楊梅の味見などして吟行す　こすもす
老鶯の声が歓迎深山路　こすもす
清流の畔はことに濃紫陽花　小袖
水漬く枝の先は蜻蛉の休み処　小袖
一茎に二三は白し半夏生　たか子
病葉を沈めて澱む山湖かな　たか子
山峡を縫ひ七曲りバス涼し　宏虎
緑化園奥へ奥へと青葉満つ　宏虎
走り根に足なとられそ木下闇　よう子
亀の首遠見するごと梅雨晴間　よう子
寄りあふて頭突きす風の葱坊主　よし子

定例句会みのる選

二〇一七年六月二一日（参加者一六名）